

Confidential

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

「2016 年度在宅医療推進のための会」

報 告 書

年間テーマ

質の保障された在宅医療をどのように普及するのか

座長：蘆野 吉和 氏

(社会医療法人北斗 地域包括ケア推進センター長)

— 目 次 —

■はじめに（座長：蘆野吉和氏）	1 P
■参加委員名簿	4 P
■第1回研究会（5/27）	7 P
・田城 孝雄氏「地域医療再生計画」	
・三浦 久幸氏「在宅医療連携拠点事業からの学び」	
■第2回研究会（6/24）	25 P
・山崎 章郎氏「より良き地域包括ケアのために」～在宅緩和ケア専門診療所の必要性～	
・井尾 和雄氏「立川在宅ケアクリニック 16年の歩み」～在宅ホスピスケア普及を目指して～	
・山路 憲夫氏「ドイツにおける専門的緩和ケア」	
■第3回研究会（7/22）	47 P
・高橋 隆雄氏「21世紀の日本的ケアのあり方を考える」	
■第4回研究会（9/23）	65 P
・豊田 健二氏「徳島市の在宅医療について」～地域包括ケアシステムの実現を、本気で目指す～	
・竹原 義典氏「徳島市での取組み」	
・舛友 一洋氏「Zの軌跡と展開」	
・福井 周治氏「自宅看取り率日本一 豊岡市の取組み」	
■第5回研究会（10/28）	95 P
・小笠原 文雄氏「THPの育成について」	
・荻野 美恵子氏「今後の医療状況と在宅医療コーディネーターの育成」	
■第6回研究会（12/16）	105 P
・大島 伸一氏「長寿医療センターと在宅医療」	
・太田 秀樹氏「在宅医療の現状と今後の課題」	
・平原 佐斗司氏「質の保障された在宅医療をどのように普及するのか」	
・鈴木 央氏「地域の在宅医療推進のため～（ア）～（ク）を超えて～」	
■第7回研究会（1/27）＜小児在宅医療推進のための会合同勉強会＞	137 P
・前田 浩利氏「医療ケアに依存して生活する子ども（医療ケア児）」	
・伯野 春彦氏「0歳から100歳の地域包括ケアと医療的ケア児の在宅医療」～厚生労働省医政局の取り組み～	
・田中 真衣氏「医療的ケアが必要な障害児への支援の充実に向けて」	
・紅谷 浩之氏「0歳から100歳の地域包括ケアと医療的ケア児の在宅医療」～0-100在宅医療に取り組んで～	
・市橋 亮一氏「成人在宅医が小児在宅をはじめるためにしたこと」	
～12箇所の成人在宅専門クリニックへのアンケート結果を含めて～	
■第8回研究会（2/24）	173 P
・辻 哲夫氏「行政技術者の立場から」	
・佐々木 昌弘氏「医学教育モデル・コア・カリキュラムの6年ぶり3回目の改定の視点から」	
・和田 忠志氏「在宅医療の教育」	

2016年度「在宅医療推進のための会」報告書

2016年度「在宅医療推進のための会」 座長 蘆野吉和
(社会医療法人北斗 地域包括ケア推進センター長)

2017年5月1日

平成26年度から地域包括ケアシステムの構築が始まり、丸3年目を迎えました。現在、この制度設計に相当する重要な政策として、介護保険事業計画（改定介護保険法による）の在宅医療介護連携推進事業および地域医療構想（改定医療法による）による地域医療の機能分化と再編がすすめられていますが、どのように取り組んでいくのか戸惑っている地域が多いのも現状のようです。

戸惑いの理由の一つが、在宅医療介護連携推進事業および地域医療構想いずれも、在宅医療の普及を念頭においた事業であるにもかかわらず、市町村行政および医療機関（病院および診療所、地区医師会を含む職能団体等）の在宅医療の理解と取り組みが進んでいないことにあります。また、国民の在宅医療の理解、特に看取りを伴う在宅医療の理解もまだまだ進んでいないのも事実です。

その一方で、平成28年度の診療報酬改定においても、在宅医療推進に向けた報酬体系のさらなる強化があり、在宅医療に取り組む病院および診療所が増えてきています。そして、平成30年度には、診療報酬・介護報酬の同時改定、地域医療構想の実施、第7次医療計画の策定、第7期介護保険事業計画の策定等があり、制度的（法的）には在宅医療構築体制が整備・強化されることになっています。

このような状況下で、在宅医療に先進的に取り組んでいる集団としての当勉強会は、在宅医療についての知見を広げ、在宅医療の課題について検討する段階から次の段階に進まざるを得ないものと考えます。

そこで今年度（平成28年度）は勉強会のテーマを、『質の保障された在宅医療をどのように普及するのか』とし、「在宅医療の質」に関する議論を始めました。どのような視点から質を評価するのか難しい問題ですが、在宅医療で最も重視されるのが地域で生活する人とその家族にとっての「生活の質」であり、今後は「死の質」も含めて焦点をあて、在宅医療を受ける利用者とその家族のニーズや地域社会のニーズに視点を置き、満足度や幸福度等も評価指標に組み込んで議論を行いました。

また、議論の中で『普及する』ための具体的戦略についても検討しました。そして、この戦略は、可能な限り次年度以降の勇美財団が助成する事業（あるいは日本在宅ケアアライアンスのプロジェクト）として企画し、勉強会のメンバーも主体的にかかわり、その実現に向けた取り組みを行うことを念頭に置いて議論を行いました。

今年度は8回の勉強会を企画しました。第1回は平成28年5月27日（金）に「これまでの在宅医療推進関連事業を振り返り『地域医療介護総合確保推進基金』等を使った、より効果的な在宅医療普及戦略を探る」というサブテーマで、田城孝雄氏（放送大学 教養学部教授：「地域医療再生計画」）、三浦久幸氏（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部長：「在宅医療連携拠点事業からの学び」）のお二人に話題提供していただきました。

第2回は6月24日（金）に「専門的在宅緩和ケアチームをどのように育てるのか」というサブテーマで山崎章郎氏（ケアタウン小平クリニック院長：「より良き地域包括ケアのために～在宅緩和ケア専門診療所の必要性～」）、井尾和雄氏（医療法人者社団在和会 立川在宅ケアクリニック理事長：「立川在宅ケアクリニック16年の歩み～在宅ホスピスケア普及を目指して～」）、山路憲夫氏（白梅学園大学こども学部・家族地域支援学科教授：「ドイツにおける専門的緩和ケア」）の3名に話題提供して頂きました。

第3回は7月22日(金)に「21世紀型の日本のケアのあり方を考える」というサブテーマで高橋隆雄氏(熊本大学大学院社会文化科学研究科教授)に講演して頂きました。

第4回は9月23日(金)に「地域支援事業としての在宅医療をどのように進めるのかー特に行政の視点からの提言」というサブテーマで、地区医師会と行政が連携して在宅医療を推進している地域の紹介を、①徳島県徳島市での取り組み:豊田健二氏(徳島市医師会常任理事:「徳島市の在宅医療について～地域包括ケアシステムの実現を、本気で目指す～」)、竹原義典氏(徳島市保健福祉部 介護・ながいき課課長補佐:徳島市保健福祉部部長 井原忠博氏代理:「徳島市での取り組み」)、②大分県臼杵市での取り組み:舩友一洋氏(臼杵市医師会立コスモス病院副院長:「Zの軌跡と展開」)、③兵庫県富岡市の取り組み:福井周治氏(豊岡市健康福祉部部長:「自宅看取り率日本一 豊岡市の取り組み」)の4名に行って頂きました。

第5回は10月28日(金)に「在宅医療コーディネーターの育成に向けて」というサブテーマで、小笠原文雄氏(医療法人聖徳会 小笠原内科理事長:「THPの育成について」)と荻野美恵子氏(北里大学医学部附属新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門包括ケア全人医療学講師:「今後の医療状況と在宅医療コーディネーターの育成」)のお二人に話題提供していただきました。

第6回は12月16日(金)に、「在宅医療の現状と今後の展望(1)ー質の保障された在宅医療をどのように普及するのかー」というサブテーマで大島伸一氏(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター名誉総長)、太田秀樹氏(医療法人アスミス おやま城北クリニック理事長)、平原佐斗司氏(東京ふれあい医療生活協同組合副理事長、梶原診療所 在宅総合ケアセンター長/病棟医長、オレンジほっとクリニック所長(地域連携型認知症疾患医療センター長))、鈴木央氏(鈴木内科医院院長)の4名にお話していただきました。

第7回は平成29年1月27日(金)に、平成27年度、平成28年度に引き続き第3回目となる小児在宅医療推進のための会(東京・大阪合同研究会)との合同勉強会として開催し、前田浩利氏(医療法人財団はるたか会:「医療ケアに依存して生活する子ども(医療ケア児)」)、伯野春彦氏(厚生労働省医政局地域医療計画課在宅医療推進室室長:「0歳から100歳の地域包括ケアと医療的ケア児の在宅医療」)、田中真衣氏(厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室:「医療的ケアが必要な障害児への支援の充実に向けて」)、紅谷浩之氏(オレンジホームケアクリニック:「0歳から100歳の地域包括ケアと医療的ケア児の在宅医療～0-100在宅医療に取り組んで～」)、市橋亮一氏(医療法人かがやき総合在宅医療クリニック代表:「成人在宅医が小児在宅をはじめるためにしたこと～12箇所の成人在宅専門クリニックへのアンケート結果を含めて～」)の5名に小児在宅医療について話題提供していただきました。

そして、最後となる第8回は、平成29年2月24日(金)に、第6回と同じサブテーマ「在宅医療の現状と今後の展望(2)ー質の保障された在宅医療をどのように普及するのかー」で、辻哲夫氏(東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)、佐々木昌弘氏(文部科学省 高等教育局 医学教育課 企画官)、和田忠志氏(医療法人社団実幸会 いらはら診療所在宅医療部長)の3名にお話を伺いました。

第1回から第8回目まで、話題提供が盛りだくさんであったため、今年度も昨年度同様に討論時間をあまり長く取ることができませんでした。そのため、今回の記録集では話題提供者の発表内容を、ほとんど要約せず、この会に参加していない人にも理解できるよう校正しました。なお、話を直接聞いていない方に、文脈上誤解されやすい言葉やわかりにくい言葉は修正しておりますので多少臨場感は薄まっ

ていることをあらかじめお断りしておきます。

約1年間、話題提供者および参加してくれた方々、そして在宅医療助成勇美記念財団の事務局の方々に感謝申し上げます。

氏名	所 属	役 職
★あしの よしかず ★蘆野 吉和	社会医療法人北斗	地域包括ケア推進センター長
いじし まかつひ 飯島 勝矢	東京大学 高齢社会総合研究機構	教授
いお かずお 井尾 和雄	医療法人社団在和会 立川在宅ケアクリニック	院長
いけがき じゅんいち 池塚 淳	兵庫県立がんセンター	緩和医療担当部長
いどう じゅんいちろう 伊藤 順一郎	メンタルヘルス診療所しつぽふあーれ	院長
いのくち ゆうじ 猪口 雄二	公益社団法人 全日本病院協会	副会長
うつのみや ひろこ 宇都宮 宏子	在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子オフィス	代表
おおしま しんいち 大島 伸一	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	名誉総長
おおしま ひろこ 大島 浩子	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター 在宅医療開発研究部	長寿看護・介護研究室長
おおた ひでき 太田 秀樹	医療法人 アスムス	理事長
おおほし えいじ 大橋 英司	医療法人社団 大橋内科胃腸科	理事長
おがわ としこ 小川 聡子	医療法人社団 東山会	理事長
おくむら けいこ 奥村 圭子	医療法人八事の森 杉浦医院 地域ケアステーション はらベニスバイス	室長
かわい まこと 川井 真	一般社団法人 JA共済総合研究所	主席研究員
かわしま こういちろう 川島 孝一郎	仙台往診クリニック	院長
きたざわ あきひろ 北澤 彰浩	佐久総合病院	診療部長
きんだい せいこ 金田一 成子	一般社団法人 日本女性薬剤師会	副会長
くろいわ たくお 黒岩 卓夫	医療法人社団 萌気会	理事長
くわはら なおゆき 桑原 直行	対馬市いづはら診療所	所長
こえた じゅんいち 小枝 淳一	社団法人慈恵会 青森慈恵会病院	緩和ケア統括部長
こじま はじめ 小嶋	医療法人 深仁会 手稲家庭医療クリニック	院長
こだま つよし 小玉 剛	こだま歯科医院	院長
しまざき けんじ 島崎 謙治	政策研究大学院大学	教授
しみず まさかつ 清水 政亮	清水メディカルクリニック	副院長
すぎもと みぎわ 杉本 みぎわ	福岡県立大学 ヘルスプロモーション看護学系 在宅看護	助手
すずき くにひこ 鈴木 邦彦	公益社団法人 日本医師会	常任理事
すずき たかお 鈴木 隆雄	桜美林大学 加齢・発達研究所	所長
すずき ひろし 鈴木 央	鈴木内科医院	院長
せきもと ごう 関本 剛	関本クリニック	副院長
たかた つねお 高田 常雄	公益社団法人 東京都鍼灸師会	会長
たかやま ましひろ 高山 義浩	沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科	医長
たしろ たかお 田城 孝雄	放送大学教養学部 / 順天堂大学	教授 / 客員教授
たなか しげる 田中 滋	慶應義塾大学	名誉教授
たにみず まさひと 谷水 正人	独立行政法人 国立病院機構 四国がんセンター	副院長
ついでつお 辻 哲夫	東京大学 高齢社会総合研究機構	特任教授
つちはし まさひこ 土橋 正彦	土橋医院	院長
つるおか ゆうこ 鶴岡 優子	つるかめ診療所	所長
とほけんじ 鳥羽 研二	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	理事長
ながい やすのり 永井 康徳	医療法人 ゆうの森 たんぽぽクリニック	院長
ながお かずひろ 長尾 和宏	医療法人社団 裕和会 長尾クリニック	院長
なぐら みちあき 奈倉 道明	埼玉医科大学総合医療センター 小児科	講師
にしだ しんいち 西田 伸一	医療法人社団 泉社会 西田医院	院長
にしむら げんいち 西村 元一	金沢赤十字病院	副院長
はぎた ひとし 萩田 均司	有限会社メディフェニックスコーポレーション	代表取締役
はなぶさ ひろお 英 裕雄	医療法人社団 三育会	理事長
はらぐち まこと 原口 真	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	企画戦略局長
はらだ あつし 原田 敦	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	病院長
ひらほら さとし 平原 佐斗司	東京ふれあい医療生活協同組合	副理事長
ふじた しんすけ 藤田 伸輔	国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会 千葉大学医学部附属病院 地域連携部	教授
ほその じゅん 細野 純	細野歯科クリニック	院長
ほった さとこ 堀田 聡子	国際医療福祉大学大学院	教授
べにや ひろゆき 紅谷 浩之	オレンジホームケアクリニック	代表
まつしま だい 松嶋 大	ものがたり診療所もりおか	所長
みうら ひさゆき 三浦 久幸	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター	在宅連携医療部長
みうら まさあつ 三浦 正悦	医療法人 心の郷	理事長
みやま ましひこ 宮島 俊彦	岡山大学	客員教授
やなぎさわ かつひこ 柳澤 勝彦	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 研究所	所長
やまなか たかし 山中 崇	東京大学 医学部在宅医療学拠点	特任准教授
わたなべ しょう 渡辺 象	医療法人社団 じゅんせいクリニック	院長
わた だだし 和田 忠志	医療法人社団 実幸会 いらはら診療所	在宅医療部長

厚生労働省等

	氏名	所属	役職
1	いしい よしやす 石井 義恭	厚生労働省 老健局 総務課	課長補佐
2	くわき こうたろう 桑木 光太郎	厚生労働省 医政局 地域医療計画課 在宅医療推進室	室長補佐
3	ごとう ともみ 後藤 友美	厚生労働省 老健局 老人健康課	在宅看護専門官
4	さこい まさみ 迫井 正深	厚生労働省 保険局 医療課	課長
5	ささき たけし 佐々木 健	厚生労働省 医政局 地域医療計画課	課長
6	ささき まさひろ 佐々木 昌弘	文部科学省 高等教育局 医学教育課	企画官
7	しみず まりこ 清水 真理子	厚生労働省 医政局 地域医療計画課 在宅医療推進室	在宅医療係
8	すずき こういち 鈴木 幸一	厚生労働省 医政局 地域医療計画課 在宅医療推進室	研修生
9	たかだ しゆんこ 高田 淳子	厚生労働省 医政局 歯科保健課	歯科医師臨床研修専門官
10	たけだ としひこ 武田 俊彦	厚生労働省 医薬・生活衛生局	局長
11	はくの はるひこ 伯野 春彦	厚生労働省 医政局 地域医療計画課 在宅医療推進室	室長
12	ふじもと こう 藤本 晃	厚生労働省 医政局 地域医療計画課 在宅医療推進室	在宅医療係長
13	やまぐち みちこ 山口 道子	厚生労働省 医政局 地域医療計画課 在宅医療推進室	在宅看護専門官
14	よしの たかし 吉野 隆之	九州厚生局	局長
15	わたなべ ゆみに 渡辺 由美子	厚生労働省 大臣官房 会計課	課長

(50音順・敬称略)

	氏名	所属	役職
1	かみや かずこ 上家 和子	大阪府 健康医療部	部長
2	わたなべ けんいちろう 渡邊 顕一郎	東京検疫所東京空港検疫所支所	支所長

(50音順・敬称略)

第1回「2016年度在宅医療推進のための会」

■年間テーマ：質の保障された在宅医療をどのように普及するのか

■日時：平成28年5月27日（金）19：00～21：00 ステーションコンファレンス東京6階

■第1回勉強会サブテーマ 「これまでの在宅医療推進関連事業を振り返り『地域医療介護総合確保推進基金』等を使ったより効果的な在宅医療普及戦略を探る」

■第1回勉強会 出席者 委員34名・オブザーバー12名

■プログラム

1. 話題提供

1) 田城孝雄氏（放送大学 教養学部教授）

「地域医療再生計画」

2) 三浦久幸氏（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部長）

「在宅医療連携拠点事業からの学び」

2. 質疑応答・討論

■第1回勉強会企画の趣旨について

平成17（2005年）年度以降、在宅医療普及のための様々な施策（診療報酬や介護報酬の改定、在宅医療を念頭においた医療計画の策定等）が行われてきました。特に平成21年度から平成24年度までの補正予算による地域医療再生基金では、平成23年度には在宅医療連携のための拠点事業強化が、平成24年度には在宅医療連携事業が基金の使途として盛り込まれました。また、平成23年度、平成24年度には国の在宅医療連携拠点事業が展開され、この事業の評価により、在宅医療関連事業が介護保険事業計画の地域支援事業として在宅医療介護連携推進事業に盛り込まれました。

そして現在は、この事業だけでなく、地域包括ケアシステムの構築を進めるための基金「地域医療介護総合確保推進基金」からも在宅医療推進のための事業費が盛り込まれ、全国各県で平成26年から各種事業が行われています。この基金はわたしたちが支払っている消費税を財源としていますので、より効果的に、量的にも質的にも在宅医療が広がることを期待していいと思いますが、全国的にみると有効に活用されているとは思えない、どのような事業が展開されているのか、基金が有効に使われているのかもよく見えない状況にあるような気がします。

各県によって事業費の使い道に大きな温度差があり、その温度差は、基金の事業を委託されている行政や職能団体の在宅医療に関する理解度の差、これまでの在宅医療関連事業への取り組み方の差、他都道府県で効果的に展開されている事業に関する情報収集の差などによって生じているものと思われます。そこで、今回の勉強会では今後の展開、特に基金を使った質の高い在宅医療の普及を図るための戦略があるのかどうか、あるとして私たちが関与できる戦略とはどのようなものかについて幅広いご意見を伺い、実行可能なプロジェクトを計画したいと思います。

今回は、そのための話題提供として、これまで展開された在宅医療関連事業を振り返ります。地域医療再生基金による在宅医療連携事業の評価を田城孝雄氏に、在宅医療連携拠点事業の評価を三浦久幸氏にお願いし、全体の評価、それぞれの事業において特に今後モデルとなりうる事業の紹介、現在も進化していると思われる事業の紹介、特に行政あるいは医師会が積極的に関与している事業の紹介、そして、今後の基金による事業を「見える化」し、圏域内外で参照できるためにはどのような方法があるのか等についても提言して頂きます。

◆第1回の報告書内容は、11月23日（祝）「第12回在宅医療推進フォーラム」の当日資料に掲載の中間報告書を引用しています。

第2回「2016年度在宅医療推進のための会」

■年間テーマ：質の保障された在宅医療をどのように普及するのか

■日時：平成28年6月24日（金）19：00～21：00 ステーションコンファレンス東京6階

■第2回勉強会サブテーマ「専門的在宅緩和ケアチームをどのように育てるのか」

■第2回勉強会 出席者 委員39名・オブザーバー12名

■プログラム

1. 話題提供

1) 山崎章郎氏（ケアタウン小平クリニック院長）

「より良き地域包括ケアのためにー在宅緩和ケア専門診療所の必要性ー」

2) 井尾和雄氏（医療法人社団在和会 立川在宅ケアクリニック理事長）

「立川在宅ケアクリニック16年の歩み～在宅ホスピスケア普及を目指して～」

3) 山路憲夫氏（白梅学園大学 こども学部・家族地域支援学科教授）

「ドイツにおける専門的緩和ケア」

2. 質疑応答・討論

■第2回勉強会企画の趣旨について

平成27年度の勉強会では緩和ケア病棟と地域との連携について取り上げましたが、討論の中で、特にがん疾患における緩和ケアは在宅医療でも対応可能なこと、症状緩和が難しい、あるいは複雑なニーズを持つ人には緩和ケア病棟の存在意義もあるとの話がありました。

今後、地域密着型緩和ケア（地域緩和ケア）を普及してゆくためには、プライマリケアとしての緩和ケア（primary palliative care）の普及と同時に、プライマリケアでは対応できない、対応しきれない病状に対する専門的な在宅緩和ケア体制も必要となってくると思います。

すでに、全国各地に専門的在宅緩和ケアを実践している在宅医療チームが少なからず存在し、それぞれが所属する地域で頑張っており、多くの経験・知識・技能等をもっていますので、その実践力や知恵を結集することで、質の保障された専門的在宅緩和ケアの普及と人材育成ができるものと思われます。

また、すでに、カナダ、アメリカ、西ヨーロッパでは専門的在宅緩和ケア体制が国家戦略として組み立てられており、本人や家族の高い満足度が得られ、家族の死別後の悲嘆が少なく、社会保障費も少ないこと等がエビデンスとして報告されており、世界的な緩和ケアの潮流となっています。

今回の勉強会では、がん疾患も含めて地域で多くの看取りを伴う在宅医療（在宅緩和ケア）を実践者から、専門的在宅緩和ケアの普及とその体制を構築するために必要な事項について提言していただきます。

◆第2回の報告書内容は、11月23日（祝）「第12回在宅医療推進フォーラム」の当日資料に掲載の中間報告書を引用しています。

第3回「2016年度在宅医療推進のための会」

■年間テーマ：質の保障された在宅医療をどのように普及するのか

■日時 平成28年7月22日（金）19：00～21：00 ステーションコンファレンス東京6階

■第3回勉強会 出席者 委員41名・オブザーバー7名

■第3回勉強会サブテーマ 「21世紀型の日本的ケアのあり方を考える」

■プログラム

1. 話題提供

高橋隆雄氏（熊本大学名誉教授/大学院先端機構客員教授）

「21世紀の日本的ケアのあり方を考える」

2. 質疑応答・討論

■第3回勉強会企画の趣旨について

在宅医療の質を考えるうえで欠かせない項目は文化です。ケアのあり方は国々で異なっており、それは、その国あるいはその地域に根付いている文化あるいは風土を反映しているからです。そこで、今回の勉強会では、これからのありたいケアの本質を探るという趣向で、日本的ケアに言及している方にお話を聞くこととしました。この分野で多くの著書や論文を出しているのは、高橋隆雄氏と広井良典氏ですが、今回は高橋隆雄氏に講演をお願いしました。

◆第3回の報告書内容は、11月23日（祝）「第12回在宅医療推進フォーラム」の当日資料に掲載の中間報告書を引用しています。

第4回「2016年度在宅医療推進のための会」

■年間テーマ：質の保障された在宅医療をどのように普及するのか

■日時：平成28年9月23日（金）19：00～21：00 ステーションコンファレンス東京6階

■第4回勉強会サブテーマ

「地域支援事業としての在宅医療をどのように進めるのか～特に行政の視点からの提言」

■第4回勉強会 出席者 委員44名・オブザーバー11名

■プログラム

1.話題提供

1) 徳島市での取り組み

①豊田健二氏（徳島市医師会常任理事）

「徳島市の在宅医療について～地域包括ケアシステムの実現を、本気で目指す～」

②竹原義典氏（徳島市保健福祉部 介護・ながいき課課長補佐）井原忠博氏（保険福祉部部長）代理

「徳島市での取り組み」

2) 大分県臼杵市での取り組み

舛友一洋氏（臼杵市医師会立 コスモス病院副院長）

「Zの軌跡と展開」

3) 兵庫県豊岡市の取り組み

福井周治氏（豊岡市健康福祉部部長）

「自宅看取り率日本一 豊岡市の取り組み」

2. 質疑応答・討論

■第4回勉強会企画の趣旨

現在、在宅医療介護連携推進事業は介護保険事業計画の地域支援事業として、各市町村と地区医師会等が連携して取り組むこととなっていますが、その取り組みが円滑に進んでいる地域はまだ少ないものと思います。取り組みが円滑に進んでいない理由（要因・バリアー）は、行政あるいは地区医師会それぞれに数多くあると思いますが、今回は事業が比較的うまく進んでいる地域の話（特に行政担当者の話も含め）を聞くことで、私たちが企画できるなんらかの戦略を編み出したいと思います。

なお、今回の話題提供者は第1回勉強会において話題提供していただいた、田城孝雄氏に1か所、三浦久幸氏から2か所を推薦して頂きました。

◆第4回の報告書内容は、11月23日（祝）「第12回在宅医療推進フォーラム」の当日資料に掲載の中間報告書を引用しています。

第5回「2016年度在宅医療推進のための会」

■年間テーマ：質の保障された在宅医療をどのように普及するのか

■日時 平成28年10月28日（金）19：00～21：00 ステーションコンファレンス東京6階

■第5回勉強会サブテーマ

在宅医療コーディネーターの育成に向けて

■第5回勉強会 出席者 委員41名・オブザーバー21名

■プログラム

1. 話題提供

1) 小笠原文雄氏（医療法人聖徳会 小笠原内科理事長）

「THPの育成について」

2) 荻野美恵子氏（北里大学 医学部附属新世紀医療開発センター横断的医療領域開発部門包括ケア全人医療学講師）※話題提供当時

「今後の医療状況と在宅医療コーディネーターの育成」

2. 質疑応答・討論

■第5回勉強会企画の趣旨について◇

在宅医療の利用者および家族の様々なニーズに可能な限り対応できる在宅医療／在宅ケアを提供するためには医療および介護の多職種が関わる必要がありますが、それらの職種を調整するコーディネーターが必要であるとの指摘がこれまでの勉強会でありました。このコーディネーターとして、看護師、MSW等が現在活躍し、提供される在宅医療の質の向上に寄与していることも報告されています。

今回の勉強会では、特に複雑なニーズに対応できるコーディネーターを全国的な規模で人材育成することの意義や人材育成のしくみ等について話題提供をおこなっていただき、ご意見や提言をいただきます。

第6回「2016年度在宅医療推進のための会」

■年間テーマ：質の保障された在宅医療をどのように普及するのか

■日時：2016年12月16日（金）19：00～21：00 ステーションコンファレンス東京6階「605BC」

■第6回 勉強会参加者：委員49名・オブザーバー14名

■第6回勉強会サブテーマ

在宅医療の現状と今後の展望（1）

－質の保障された在宅医療をどのように普及するのか－

■プログラム

1. 講演

1) 大島伸一氏（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター名誉総長）

「長寿医療センターと在宅医療」

2) 太田秀樹氏（医療法人アスミス理事長）

「在宅医療の現状と今後の課題」

3) 平原佐斗司氏（東京ふれあい医療生活協同組合副理事長、梶原診療所 在宅総合ケアセンター長/
病棟医長、オレンジほっとクリニック所長（地域連携型認知症疾患医療センター長）

「質の保障された在宅医療をどのように普及するのか」

4) 鈴木央氏（鈴木内科医院院長）

「地域の在宅医療推進のため～（ア）～（ク）を超えて～」

2. 質疑応答・討論 なし

■第6回勉強会の内容および趣旨

平成28年度のテーマ「質の保障された在宅医療をどのように普及するのか」に係る議論を深め、具体的な行動計画（事業計画、戦略立案等）をたてるため、これまで一緒に主体的先駆的に取り組んできた大島氏、太田氏、平原氏、鈴木氏に今後の普及のあり方、財団の活動の方向性等について提言を頂くこととします

第7回「2016年度在宅医療推進のための会」

■年間テーマ：質の保障された在宅医療をどのように普及するのか

■日時：2017年1月27日（金）19：00～21：00 ステーションコンファレンス東京6階

■第7回勉強会参加者：委員66名（小児の会＜東京＞21名、＜大阪＞6名、推進の会39名）・オブザーバー23名

■第7回勉強会サブテーマ

「2016年在宅医療推進のための会」「小児在宅医療推進のための会」東京・大阪合同研究会

■プログラム

1. 話題提供

1) 前田浩利氏（医療法人財団はるたか会理事長）

「医療ケアに依存して生活する子ども（医療ケア児）」

2) 伯野春彦氏（厚生労働省 医政局地域医療計画課 在宅医療推進室室長）

「0歳から100歳の地域包括ケアと医療的ケア児の在宅医療

～厚生労働省医政局の取り組み～」

3) 田中真衣氏

（厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害者支援室障害福祉専門官）

「医療的ケアが必要な障害児への支援の充実に向けて」

4) 紅谷浩之氏（オレンジホームケアクリニック代表）

「0歳から100歳の地域包括ケアと医療的ケア児の在宅医療～0-100在宅医療に取り組んで～」

5) 市橋亮一氏（医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック代表理事）

「成人在宅医が小児在宅をはじめるためにしたこと

～12箇所の成人在宅専門クリニックへのアンケート結果を含めて～」

2. 質疑応答・討論

■第7回勉強会の内容および趣旨

第7回勉強会は東京と大阪で開催されている小児在宅医療推進のための会との合同勉強会です。

この合同勉強会は、2014年度から始まり、2015年度に続き今回で3回目となります。話題はすべて小児在宅医療に関することとし、前田氏に演者を含めたプログラムを作成していただきました。

小児在宅医療に関しては、厚生労働省も国の事業として積極的に取り組んでおり、今回は、その取り組みも含めて報告していただきます。また、年々「医療的ケア児」が増えていることより、今回は成人の在宅医療に取り組んでいる診療所の報告がプログラムに盛り込まれており、小児在宅医療と一般の在宅医療の合同勉強会の意義が明瞭に示されています。

第8回「2016年度在宅医療推進のための会」

■年間テーマ：質の保障された在宅医療をどのように普及するのか

■日時：2017年2月24日（金）19：00～21：00 ステーションコンファレンス東京6階

■第8回勉強会サブテーマ

在宅医療の現状と今後の展望（2）

－質の保障された在宅医療をどのように普及するのか－

■第8回勉強会 出席者 委員43名・オブザーバー15名

■プログラム

1. 講演

1) 辻哲夫氏（東京大学 高齢社会総合研究機構特任教授）

「行政技術者の立場から」

2) 佐々木昌弘氏（文部科学省 高等教育局医学教育課企画官）

「医学教育モデル・コア・カリキュラムの6年ぶり3回目の改定の視点から」

3) 和田忠志氏（医療法人社団実幸会 いらはら診療所在宅医療部長）

「在宅医療の教育」

2. 質疑応答・討論（教育について）

■第8回勉強会企画の趣旨について

第6回勉強会に引き続き、今回は辻哲夫氏、和田忠志氏に話題提供をお願いし、平成28年度のテーマ「質の保障された在宅医療をどのように普及するのか」に係る議論を深め、具体的な行動計画（事業計画、戦略立案等）策定につなげていきたいと思っております。

また、平成27年度と同様に医療系の学生教育の動きについて佐々木氏より報告を受けたいと思っております。

*付記 今回の勉強会の先立ち、2017年1月4日に亡くなられた、勇美記念財団理事長住野勇氏の奥様である住野美代子様に黙祷をささげました。